

令和4年度 4回 福島県立医科大学 Faculty Development

「南アジアの医学教育－実践を通して得た学び－」 開催報告

福島医大 FD を以下の通り行いました。

1. 目的：
 - ・日本の医学教育について相対的な視座を持つ
 - ・ブータン王国での医療、医学教育の実践について理解を深める
2. 日時、形態：令和4年11月21日（月）17:00～18:00、zoom 開催
3. 対象：医学部、看護学部、保健科学部教員、大学院生、事務職員
4. 主催：医療人育成・支援センター
5. タイムスケジュール：（敬称略）

開始時間	所要時間	形式	講師・進行	内容
16:45				受付開始
17:00	5		大谷 晃司	開会の挨拶、講師のご紹介
17:05	30	講演		「南アジアの医学教育－実践を通して得た学び」 Khesar Gyalpo University of Medical Sciences of Bhutan (KGUMSB) 西澤 和子先生
17:35	15		及川 沙耶佳	全体 Q&A
17:50	10		大谷 晃司	閉会の挨拶
18:00				終了

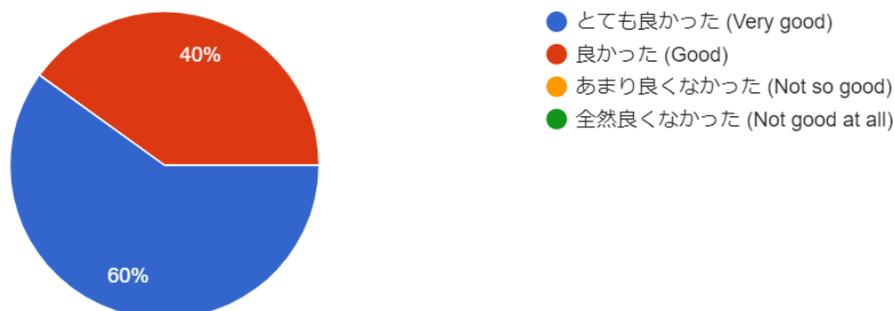
6. 当日の様子

西澤先生からブータンの医療システムや医療者教育についてご講演をいただきました。全体の質疑応答では、参加者からブータンの伝統医療に対する質問がありました。西澤先生よりブータンの医療大学には Faculty of traditional medicine という学部があり、そこでチベット医学やアーユルベーダなどの影響を受けたブータン独自の伝統医学を教育していること、患者さんは医療を受ける際に伝統医学か西洋医学を選ぶことができること、などの情報提供をいただきました。

7. 参加者アンケートより

35名の参加者のうち10名から事後アンケートをご提出いただきました（回収率28.6%）

Q1. 今回のFDの講義はいかがでしたか？（How do you think about today's lecture?）



Q2. Q1の理由をお聞かせください（Why do you think so in Question #1?）

- ブータンの状況を知ることができ、楽しく拝聴いたしました。
- 先生方のコメントにもありましたが、自国以外の医学教育を取り巻く現状をお聞かせいただく機会は非常に貴重で、大変勉強になりました。
- 海外の医学教育の実情を学べる有意義な時間でした。
- 素晴らしい内容で、進行もスムーズで、プレゼンも良かった。
- ブータンでの医学教育、日本でも真似できるところがあって、実践的でいいなと思いました。
- とてもわかりやすいスライドと内容でした。
- 日本のガラパゴス化がよく分かりました。
- ブータンの医療事情、医療教育について知ることができた。

あとがき

多様化の進む世界の中で、一部の国や地域が発信する「グローバルスタンダード」を指標とする時代は終焉しつつあります。今回は、南アジアを中心とした医学教育の動向について、日本で卒前・卒後医学教育を受けられ、ブータン王国にて小児医療、医学教育に携わられている西澤和子先生にお話をいただきました。アンケートでは、他国の医学教育について知ることは、自分たちの教育を俯瞰的に見ることにつながることを示唆されました。また、研修医教育については、評価がかなり手厚く行われていることや、レジデント（研修医）主導のQuality Improvementプロジェクトが必須事項であることなど、本邦とは異なる現状を教えてください、自分たちの環境の特殊性や可能性にあらためて気づかされる内容であったと思います。また、アンケートでは西澤先生に対するコメントも多数いただきました。西澤先生、ご参加いただいた皆様、誠にありがとうございました。

文責 医療人育成・支援センター 及川 沙耶佳